

余命一ヶ月宣告のペットとの時間 2019年1月～

年明けのメールで以下の依頼が届きました。

『正月5日、突然我が家の大型犬Eが具合が悪くなり獣医に運び込みました。検査の結果、末期の胸線癌と診断されました。余命一ヶ月です。診断寸前まで元気に見えたのが本当に有難いことなのですが、突然の宣告に我々は泣き崩れました。現在は自宅に引き取り、小康です。大型犬ですので11歳というのは寿命という点ではまあ普通です。

もう、数週間しかありません。突然、安楽死も視野に入れて次々と決断を迫られています。』

飼い主のAさんには、レメディーが必要だとすぐ思いました。

飼い主さんたちが泣かれたこと、素直な反応だったといえます。感情の溜め込みは解放されます。

今から8年前にAさんは、お母様が他界されたその年に初めてフラワーエッセンス療法を取り入れました。長年苦しんでおられた過敏性大腸炎の症状が軽減された経験がありましたので、深い悲しみにAさんは再び体調を崩すのではないかと予測したのです。

Aさんの奥様は気丈にしていますが、一生懸命世話して心配するので気がかりだということでしたので、ご了解を得て今回はご夫婦お二人の為にお出しすることになりました。以下の3種は二人に共通するレメディーです。

- ・ **ウォルナット** (分岐点にご自身を保護する)
- ・ **スターオブベツレヘム** (告知のショックや深い悲しみにトラウマにならないように心を慰める)
- ・ **アンジェリカ** (分岐点において高次の存在からのサポート)

ご夫婦のために個別に選んだものは以下の通りです。

○Aさん (ペットのエレンも一緒に試することができる)

- ・ **ボラージュ** (心が重い状態で悩み、病気や深い悲しみのあと記憶を楽観的なものに差し替え、心をケアする)
- ・ **イエルバサンタ** (特に胸のあたりで感情がこり固まった状態。悲しみや憂いを内面化させる傾向を自由に流れさせる。Aさんは長年患っている高血圧のハートチャクラに影響する体質を緩和する)

○奥様のMさん

- ・レッドチェスナット（身内、特に近い存在への過度な心配や恐れを防ぐ）
- ・ミムラス（エレンの「音」や新しい世界への恐れを緩和）

高血圧を長いこと患っている Aさんと乳腺疾患のペットのエレン。同じハートチャクラの問題が観察されるため、エレンと共有してみたらどうか提案しました。Aさんはフラワーエッセンス療法で症状が落ち着かれた後、仏教の教えを学んでいらしたので別のサポートとして、5分で良いから座禅をし、落ち着いたところでエレンの患部に手を当てるようアドバイスしました。

他には、『まだ諦めていない』それと『今の状態の絵を描いて欲しい』と、エレンからのメッセージとして感じたので、正直に Aさんにお伝えしました。

メールを頂いてから5日後、Aさんはフラワーエッセンス療法と座禅後の手当て、そして般若心経を唱え始めました。

[1/25 日の報告]

年始の見通しでは余命一月とのことでしたが、本日は顔つきもよくなりました

[2/11 日の報告]

エレンは、抗炎症薬と抗生物質を大量投与して副作用も有りましたが頑張りました。レメディも私と一緒にしっかり吞んでいます。レントゲンの結果、炎症影がかなり消失して体内の様子が明確に映るようになりました。その結果、どうやら当初予想していた腫瘍は見当たらず、予断は許されぬものの、数日単位の危機は去ったようです。体重は激減しましたが目つきも、足取りもしっかりしてきて「生」を実感しつつあります。

不思議なこともありました。エレンの絵を知り合いのイラストレーターに頼もうと決めていました。ところが、宅急便で孫（獣医からエレンの宣告を偶然一緒に聞いたお孫さん）から絵が届いたのです。当然ですが、孫はエレンからのメッセージなど知る由もありません。あまりの偶然の出来事に私達は涙するばかりでした。孫は動物病院で苦しそうなエレンを見ているはずなのに、とてもゆったりした様子を描いてあったのです。

般若心経、日常に即して私の「空」を解釈し始めています。「空」を理解しようとし始めると、孫から絵が届いたこともだんだん「そうかな」と思います。